

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年2月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503320		
法人名	有限会社クラフト・ケイ		
事業所名	グループホーム 和楽		
所在地	福山市新市町戸手803-8 (電話) 0847-52-7577		
自己評価作成日	平成24年1月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471503320&amp;SCD=320&amp;PCD=34">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471503320&amp;SCD=320&amp;PCD=34</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年2月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>日頃は近所を散歩したり入居者さんと一緒に週2回買い物に行ったり、認知力低下をできるだけ遅らそうと手作りの物を使い、脳トレーニングや体操なども行っている。更に、月4回以上の施設行事を行っている。また、年2回和楽ならではの地域・家族との交流会を行い毎回好評を頂いている。他に地域行事へ積極的に参加をし、親しみやすい『和楽』を目指している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>ほっこり、と『和楽』で寛ぐ…。もてなしの心に富んだ職員の気働きと笑顔が第一印象である。ホーム開設以来9年。開設時からの職員がほとんどで、職員のモチベーションの高さと自主的行動は、ホーム代表の職員・入居者・近隣住民とのコミュニケーションの良さが伺えた。▶これらは、地域に根付いたホームの運営につながっている。入居者を地域の人々でやさしく見守る姿勢は、代表者と全職員の地域連携への日々の地道な活動の成果である。▶開設時の構想は、代表者の両親が要介護5だったこともあり、両親のために血の通った介護、介護に適した理想の家を創ることにあった。そうした両親および家族への熱い思いが、いまでも「和楽」の遺伝子として脈打っている。▶全てが、やさしく寄添い、気取らない自然なケアへ、全職員の『和と輪』につながっている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を額に入れ1階、2階に見えやすいところに掲げている。会議、毎月のミーティングでグループホームのあり方を確認、助言を行い記録を取っている。日々のケアを常に意識して、申し送りノートに記入し全員が確認している。	ホーム開設時、代表者の「家族的運営の願い」を全職員で※事業所理念として具体化している。自分たちで創った理念であり、画餅でなく、日々のケアの中で実践し定着化させている。とくに、各職員が申し送りノートに自分の言葉で日々の気づきを記述し理念への意識統一を図っている。	※ 事業所理念の抜粋 ・その人の生活リズムに合った介護を… ・家庭的生活を通して利用者の可能性を引き出す ・利用者の心を受け入れ、共感し快適に暮らせる「新しい我が家」に ・家族および地域社会とのふれあいを… ・木の温もり、スタッフの温もり、入居者の温もりを大切にします。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のボランティアの方の訪問や、地域の保育所へ招かれたり、文化祭、福祉祭などにも、出来る範囲で出掛けている。	代表者がこの地の出生で、職員も地元出身者が多く、知己を通じて自然な形で地域交流が展開されている。開設時から地元保育園との交流があり、訪問に備えて、お互いに作品を作り、プレゼントの交換をしている。夏には歴史ある「※ 新市けんか神輿」の練りも訪れ、勇壮な太鼓の音をホーム内に響きわたらせている。	※（参考）けんか神輿は千年の歴史 ホームの廊下中央に、『和楽』の紋の入った縮尺（1/3）の立派な神輿（代表者・職員が廃材などを活用した手作りのもの）を飾り、祭りの勇壮さと[地域とのつながり・介護の負担を地域のみんなで担ぐ・入居者の元気]のシンボルとしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症キャラバンメイトなどで、講演させてもらったり、地域の方や、デイサービス利用のご家族の方などの相談を受けている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回の運営推進会議で報告や意見交換会など行い、利用者によりよいサービスケアになるようにしている。	各開催月ごとに時流に沿ったテーマを設け、地域交流を重視した内容とメンバー構成（行政関係者・地域のボランティア・近隣の小規模多機能事業所の管理者など）で開催。時には琴の演奏・保育園児の遊戯の披露など世代間交流も兼ねた楽しい会議とする取組みが見られる。	充実した討議内容・多様な参加メンバーの構成、議事録も詳細に記述されているが、体系的な書式と集約に欠けているようです。折角の貴重な会議であり、再検討のうえ今後の地域福祉の啓蒙活動、情報発信に活用されることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	週1回の地域の連絡会（行政・福祉施設・居宅など）に出来るだけ参加したり、運営推進会議にも参加していただけるように、連携を図っている。	毎週火曜日、関係地域の行政・福祉施設・居宅支援事業所の関係者が会合を持ち、関係事業所の実績・現状報告、情報交換を行い相互連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間転倒の危険性の高い方、お一人に対し、ご家族の了承の元、センサーを使用している。夜間（19時30分から翌日8時30）2階、階段に安全確保のためフェンスをさせてもらっている。	全職員が身体拘束禁止行為を熟知し、きめ細かい入居者の安全確保の体制が確保されている。 夜間を除き、正面玄関の施錠も開放されている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修で高齢者虐待防止に関することを学び、言葉使いや態度など、気になることがあれば職員同士で注意し合い防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	認識している職員もいるが、詳しくは学んでいないので、今後取り組んでいく。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、重要事項説明書、契約書などにて説明し、質問や疑問点を聞き、理解納得をしてもらっている。退所される場合、次の行き先や不安なことなどに対し助言・対応させてもらっている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、要望など聞き記録として残し、行政への連絡先など伝え、運営に反映させている。	「和楽日誌」と名付けたノートを備え、日勤・夜勤の職員が交互に入居者の状態を詳細に記述。家族の来訪時に開示し、家族の要望、意見交換に活かしている。特に、家族から写真の持参が多く写真を通じて生育歴・生活歴の把握など、より綿密な情報を基に家族ニーズに応えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のミーティングで意見や提案を聞いている。また、日常の会話などでも意見や提案を聞いている。</p>	<p>開設時から代表の「働く人を大切に…」の運営理念が浸透している。毎月のミーティングでリーダーを順番制とし、お互いの立場を理解し合い、上下関係をなくし、チームワークの強化につなげている。職員のやる気を引き出す代表による人事管理は高い評価に値する。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>有資格者に対しての手当。本人の勤務努力によって年1回の昇給。定期的な親睦会など行って、働きやすい職場にしている。現在、社員旅行の計画中である。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>情報公表の開示で書かれている研修以外で外部からの講師も呼んで研修行っている。内部研修を2ヶ月に1回行ったり、外部研修も行ける範囲で行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同業者への訪問、及び研修生の受け入れ、週1回の地域同業者との現状報告会・研修など行い質の向上を図っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に本人ともしっかりお話をさせてもらったり、何度か入居者の方と関われる時間を作ってもらうなど、安心してもらえるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>相談・見学・利用に至るまで、家族が困っている事、不安に思っている事など聞き、受け止め安心して頂けるような対応をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>居宅や病院などと連携をとり相談させてもらったり、緊急性の高い人を優先させてもらったり、他のサービス利用(お泊りデイ・高専賃・小規模多機能など)も含め対応をさせてもらっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>野菜作り、料理方法、お餅のつき方など、教えて頂いたり、出来る事は一緒にやらせてもらいながら、いい関係が築けるようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の面会時、又は電話など利用し、現状報告をし、家族の思いを聞いている。また、行事などにも参加してもらっている。家族の思いを本人にお伝えしたり、日々家族の話をしながら共に本人を支えていける関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の住まれていた近所の人やお友達などの行き来が出来るよう、また思い出の場所に行けるよう努めている。</p>	<p>菓子折りを持参しての旧住所からの友達の来訪も多く、居室でゆっくりとお茶を飲んで歓談をされるケースや里帰りにホームの車で送迎する事例もあり関係継続の支援が続いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知力低下の為、なかなか利用者同士、関わりあう事が難しいが、席を移動したり職員が間に入るなどして、できるだけ孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても、その後の経過を把握し、相談やアドバイスができるようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人を中心にどのようにする事が一番いいのか、日常的に話し合ったり、家族・本人から話を聞き個性を尊重できるようにしている。	各入居者ごとに担当職員を決め、個々の生活歴をふまえ、より深く関わり日々の活動の観察から希望、要望、想いの把握に努め、本人への最適のケアを組み立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族から生活歴など聞かせてもらったり、居宅のケアマネから情報を得たりし、職員で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の介護日誌に一日の行動の過し方、精神・身体状態など細かく記入し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の面会時、又は電話など利用し、意見・要望など聞き、それらを取り入れたり、主治医の話しなども取り入れながら作成し、同意・サインをもらっている。</p>	<p>各入居者ごとに担当職員を決め、生活観察、個別記録を充実させ、家族の要望、主治医の意見を総合的に勘案して、本人の現状に最適の介護計画に結びつけている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人の介護日誌、管理日誌、スタッフ向けの申し送りノートがあり、一日の様子が分かるように、日勤・夜勤で色を変え個別に記入し、カンファレンスなどでも話し合い、見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その時の状況に応じて、家族と連携しながらしながら支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員、ボランティア、福祉施設、教育機関、消防署などの協力も得ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>24時間対応の医療機関があるので、何かあればすぐ医師に連絡が取れるようになっている。</p>	<p>「いつでも往診可能。」近隣に24時間対応の病院があり、その病院との提携がこのホームの最大の強みである。重度化・終末期の対応にも迅速な機能が発揮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師に相談したり、週1回訪問看護が入っているため状態によっては受診したり、協力医療機関には気軽に相談し、指示をあおって対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご家族の方とよく相談し、安心して頂けるようサポートしている。協力医療機関と情報交換を行い連携を図っている。協力医療機関から他病院に紹介された場合、その病院関係者とも連携を取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご家族、協力医療機関と話し合い、全員で方針を共有し取り組んでいる。</p>	<p>過去、終末期の看取りは数例あり「もう一度、家に帰って見たい。」との要望に、家族では応じきれない場合、ホームの車で、本人を中心に職員と家族がビデオカメラを携えた里帰りのケースもある。家族的なホームであれば当然のこととしている。最期の看取りの尊厳を大切にしたい温もりのある対応が見られる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを参考に、定期的に研修を行ったり、消防訓練も年2回は行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>防災訓練を行ったり、近所にも協力を依頼している。</p>	<p>この地域は、過去に地震、水害の少ないところ。ハザードマップも整備され、近隣地域との連携による協力体制が築かれている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	その人のリズムや、ペースに合わせて尊重した対応に心掛けている。	その人なりの生活リズムを尊重。外出したい人は、いつでも自由に外出へ…。(安全確保のうえ) すぐ後ろを追わない自由な支援や、おやつ時間も皆が画一的な品でなく、好みを聞いて飲み物とおやつが準備されている。	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	食べ物や飲み物、衣類や外出など、出来るだけ本人の意思・希望を聞き尊重している。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	その日、その日で入居者一人一人のペースを保つように心掛けており、さり気なくサポートしている。		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。</p>	一人一人の好みで、髪型・服装をして頂いている。また、美容院に付き添ったり、その人の希望に合わせてカットをしたりしている。		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	買い物、野菜を切ったり、テーブル拭き、下膳、食器洗いなど、出来る事は手伝ってもらっている。職員も同じテーブルで食べている。	職員の中に栄養士と調理師の有資格者がいて、食材の旬を楽しむ献立が調理されている。時には、代表が釣ってきた魚を調理師の自慢の腕で捌いて、みんなで賞味することもある。家族から自宅で栽培した食材の持ち込みもあり、食事の楽しさが満喫できる恵まれた環境にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士がいるので，栄養バランスを考えカロリー・量なども人により変えている。水分量にも気をつけ最低1リットルは飲んでもらえるよう，なかなか飲めない人は一日の水分摂取量を記入している。飲み物はお茶だけではなく，毎日コーヒー・紅茶・ミルク・昆布茶など好きな物を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>声かけで歯磨きに行かれる方，介助にて行わせてもらっている方，うがいができない方はハミングッドなど使用し，イソジン液なども利用し，清潔保持をさせてもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを記録し，一人一人に合った時間帯に声かけをしたり，誘導したりしている。</p>	<p>オムツのむれ等の不快感の排除にとくに留意。オムツに至るまでの期間を可能な限り長くするように，排泄パターンの記録等により把握して，トイレ誘導など適切な排泄自立への支援が見られる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>起床時に一杯のお茶を飲んでもらったり，繊維質の物を食材に取り入れり，体操なども行っている。午後からは階段昇降などもし，腸の働きをよくするようなことも行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の希望に合わせ，毎日の人や一日おきの人など，時間帯も希望を聞いたりタイミングで入れるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調・要望に沿ったタイミングで入浴介助にあたっている。心臓の弱い方には，心臓に負担がかからない配慮とか，身体の不自由な方には二人介助のケースもある。何よりも，ゆっくりと入浴してもらえるような声かけなどが行えるよう，職員への指導を徹底させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人一人の生活リズムを把握し、安眠に繋げている。またその日の状態や希望により、居室や囲炉裏で休んでいただく事もある。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人一人に薬手帳があり、職員は受診、往診後は必ず見ている。理解している。服薬は飲み込みまで確認している。変化があれば主治医に相談させてもらっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>生活歴を把握し、その力が発揮できるように、出来る事は何でもして頂き、気分転換など出来るようにしている。一人一人の役割を決め、毎日行ってもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>近場であれば、外出としていく事はあるが、そうでない場合は、家族にお願いする事もある。</p>	<p>月に1回は全員で地域の名所めぐりとか、天候に応じて近隣の散歩に出かけている。お墓参りがしたいとか、お仏壇のことが気になるので帰って見たいと言われることもあり、その際は家族と一緒に外出をお願いするケースもある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族よりおこずかいとしてお預かりし、買い物に行ったとき自分で払ってもらったりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があればいつでもできるようにしている。連絡などでご家族に電話をしたり、手紙を送ったりする時は、代わって話をしてもらったり、同封したりしている。年賀状・暑中見舞いなども書いてもらい毎年送りやり取りをしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関に椅子を置いたり、レースのカーテンをし、眩しくないようにしたり、花を飾ったり、音楽をかけるなど工夫をしている。また、床暖房を使い足元から暖め、空気を汚さないような配慮もしている。</p>	<p>「いろりに集い、語ろう…」と和室に囲炉裏を設営し、日本古来の生活への郷愁を誘うしつらいは秀逸。24時間換気システムも完備され『寛ぎと和』快適性を追求している。建設時にケアサービスの質と共に、最も拘って構築された共用空間で、自然採光にも設計に工夫が見られる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホールに椅子を置き座られたり、囲炉裏に座ってお話をされたり、テレビを見られたりされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>今まで使われていた布団・タンス・テーブル・椅子・洋服かけ・ご家族の写真など持って来られ居心地のよいようにされている。</p>	<p>各居室入口には、各家の玄関として木製の表札を掲げ、独立性を保持。利用のしおりに「新しく物を揃える必要はありません。重要なのは愛用の品物。思い出深いもの、いつも身近に置いているもの」と明記し、生活習慣に応じた調度品が持込まれ、寛ぎの居室空間を醸成させている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ・入浴・居室など目印になるものをしたり、バリアフリーで移動しやすいようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 和 楽

作成日 平成 24年 4月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	毎回、行政に提出する用紙のコピーを議事録に添付していなかったため、もっと分かりやすくしておく。 世代間交流以外、夜間の開催が多くなかなか行政・包括の関係者・他職種の参加がなかった。	地域・家族に対し、福祉の啓発・情報発信をしていく。	時間帯を考え、行政・包括関係者や他職種の方の参加により、内容を深めながら今以上に地域や家族の方と連携を図っていく。 (認知症や介護保険などの勉強会を含め)	1年以内
2					
3					
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。